

令和8年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第6号
(8月の発生予想)

令和8年8月3日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【水稻】

穂いもち	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度1～20)	① 7月後半の葉いもち発生量は平年比やや少なく、穂いもち伝染源として重要な上位葉の病斑は少ない。 (－) ② 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(－～±)
	【防除上の留意事項】 ① ほ場の葉いもち発生状況を確認し、発生程度に応じた防除対応を行う。特に新之助や多肥栽培および転作跡での発生に注意する。 ② 粉・液剤による防除の散布適期は、1回散布では出穂期、2回散布では出穂期直前と穂揃い期である。粒剤は薬剤により散布時期が異なるため、最新の「防除指針」を参照し適期に施用する。	
紋枯病	量：並 程度：少発生 (発病度1～20)	① 7月後半の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(＋～±)
セジロウンカ	量：並 程度：少発生 (株当たり最高寄生数1～25頭)	① 7月後半の水田内すくい取り虫数はやや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ツマグロヨコバイ	量：やや多い 程度：少発生 (株当たり最高寄生数：1～10頭)	① 7月後半の水田内すくい取り虫数は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
斑点米カメムシ類	量：多い	① 7月後半の畦畔雑草地での確認地点率はアカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメが平年比高く(＋)、オオトゲシラホシカメムシが平年並(±)。 ② 7月後半の畦畔雑草地での確認虫数はアカスジカスミカメが平年比多く(＋)、アカヒゲホソミドリカスミカメ・オオトゲシラホシカメムシが平年並(±)。 ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
	【防除上の留意事項】 7月29日発表の注意報第2号(斑点米カメムシ類の多発生に注意)を参照する。	
コブノメイガ	量：並	① 7月後半の被害発生は平年並。(±) ② フェロモントラップの誘殺数は平年並。(±)
コバネイナゴ	量：やや少ない 程度：少発生 (寄生数1～10頭)	① 7月後半の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【大豆】

紫斑病	量： やや少ない	① 前年の紫斑粒の発生量は平年比やや少なく、伝染源量はやや少ないと推測される。（－） ② 向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
	【防除上の留意事項】 アゾキシストロビン剤（代表的な商品名：アミスター20フロアブル）に耐性を示すダイズ紫斑病菌が確認されている。令和７年度新潟県病害虫発生予察速報第11号を参考にして対応する。	
葉焼病	量： 並	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量はやや少ないと推測される。（－） ② ７月後半の発生量は平年並。（±） ③ 向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
	【防除上の留意事項】 「里のほほえみ」で多発生しやすい。防除適期は８月上中旬で、強風雨で急速に発病が拡大するため、強風雨が予想される場合はその直前に防除を行う。	
アブラムシ類	量： 並	① ７月後半の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±）
ツメクサガ等 食葉性鱗翅目幼虫	量： やや少ない	① ７月後半の葉の食害程度は平年比やや少ない。（－）
ハダニ類	量： やや多い	① ７月後半の発生量は平年並。（±） ② 向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）
カメムシ類	量： 多い 時期： 並	① 前年の被害子実量は平年比多く、越冬成虫数は平年より多いと推測される。（＋） ② 向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 重点防除時期は莢伸長終期（開花期４週間後頃）～子実肥大中期（開花期７週間後頃）で、多発生時はこの期間に複数回の防除が必要である。	
マメシクイガ	量： 並 時期： やや遅い	① 前年の被害子実量は平年比やや多く、越冬幼虫数は平年よりやや多いと推測される。（＋） ② 向こう１か月の気温は高いと予想されている。（－）
	【防除上の留意事項】 防除時期は８月第６半旬～９月第２半旬であるが、薬剤の種類により時期や回数に違いがあるので、最新の「防除指針」を参照する。	
ウコンノメイガ	量： 少ない	① ７月後半の被害葉（葉巻）発生量は平年比やや少ない。（－）
フタスジヒメハムシ	量： やや少ない 時期： 早い	① ７月後半の成虫発生量は平年比やや少ない。（－） ② 向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【なし】

黒斑病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率1～5%)	① 7月後半の発病葉及び発病果は未確認で平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
黒星病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率1～5%) 【防除上の留意事項】 ① 発病葉、発病果は見つけ次第せん除し、園地外に持ち出し適切に処分する。 ② 葉に薬剤がまんべんなく付着するよう、事前に新梢管理を行い、十分な薬量を散布する。 ③ 気象予報に留意し、降雨前散布を励行するとともに、かけむらのないよう丁寧に散布する。 ④ 耐性菌の発生を抑制するため、作用機構の同じ薬剤の連用は避け、作用機構の異なる剤をローテーション使用する。 ⑤ 薬剤防除の際には、収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。 ⑥ 翌年に伝染源を持ち越さないように、秋期防除及び休眠期の落葉処理を実施する。	① 7月後半の発生量(発病葉、発病果)は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
褐色斑点病	量：多い 程度：中発生 (発病葉率6～15%) 【防除上の留意事項】 ① 病落葉や落果した発病果を処分し、ほ場衛生に努める。 ② 葉に薬剤がまんべんなく付着するよう、事前に新梢管理を行い、十分な薬量を散布する。 ③ 耐性菌の発生を抑制するため、作用機構の同じ薬剤の連用は避け、作用機構の異なる剤をローテーション使用する。 ④ 薬剤防除の際には、他作物・品種への飛散や収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。	① 7月後半の発生量(発病葉)は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
ナシヒメシンクイ	量：やや多い 程度：少発生 (被害果率1～2%) 【防除上の留意事項】 ① 被害果は見つけ次第せん除し、園地外に持ち出し適切に処分する。 ② 例年発生のみられる園地では、幼虫発生期である7月下旬～8月上旬、8月中下旬の防除を実施する。なお、薬剤防除の際には、他作物・品種への飛散や収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。 ③ 収穫の遅い品種ほど果実被害が多くなる傾向があるので、中生～晩生品種(豊水、新高など)は特に注意する。	① 7月のフェロモントラップの誘殺数は、地点によるバラツキがあるが、概ね平年比やや多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【なし】 つづき

シンクイムシ類	量： 並	① 7月のモモシンクイガのフェロモントラップの誘殺数は平年比やや少ない～平年並程度。（－～±） ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。（＋）
ハマキムシ類	量： やや多い 程度： 少発生 （被害葉率1～15%） 時期： 並	① 7月後半の発生量（葉）は平年並。（±） ② リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップの誘殺数は、平年比やや多い。（＋） ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 第3世代幼虫の防除時期は、前世代成虫誘殺盛期の10日後で、およそ9月上～9月中旬。	
果樹カメムシ類	量： やや多い～並	① トラップの誘殺数は概ね平年比やや少ない～平年並。（－～±） ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。（＋）
ハダニ類	量： 並 程度： 少発生 （寄生葉率1～15%）	① 7月後半の発生量（寄生葉）は平年比やや少ない。（－） ② 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ① 葉に薬剤がまんべんなく付着するよう、事前に新梢管理を行い、十分な薬量を散布する。 ② ハダニ類は、薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一殺ダニ剤の使用は原則として年1回とし、作用機構の異なる薬剤をローテーション使用する。 ③ 薬剤防除の際には、他作物・品種への飛散や収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。	

【もも】

せん孔細菌病	量： やや多い 葉の発生程度： 中発生 （発病葉率11～30%） 果実の発生程度： 少発生 （発病果率1～5%）	① 7月後半の発病葉は平年比やや多い。（＋） ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
	【防除上の留意事項】 ① 新梢に発生する夏型枝病斑や発病果は放置せず、見つけ次第せん除し、園地外に持ち出し適切に処分する。 ② 次年度の伝染源密度低減を図るため、収穫後は速やかに無機銅剤を2週間おきに感染確率の高い10月中旬まで2～3回散布する。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【もも】つづき

灰星病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病果率 1～5%)	① 7月後半までの発病果は未確認で、発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
	【防除上の留意事項】 ① 発病果及び腐敗果実は見つけ次第せん除し、園地外に持ち出し適切に処分する。 ② 品種により収穫期が異なるので、薬剤防除にあたっては隣接園地への飛散に十分注意するとともに、収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。	
モモハモグリガ	量：並 程度：少発生 (被害葉率 1～15%)	① 7月後半の被害葉は未確認で、発生量は平年並。(±) ② 7月のフェロモントラップ誘殺数は概ね平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
	【防除上の留意事項】 ① 被害新梢の発生量は、7月前半では平年比多く、7月後半では平年並。(±～＋) ② 7月のフェロモントラップの誘殺数は、地点によるバラツキがあるが、概ね平年比やや多い。(＋) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)	
ナシヒメシンクイ	量：やや多い 程度：少発生 (被害果率 1～2%)	① 被害新梢の発生量は、7月前半では平年比多く、7月後半では平年並。(±～＋) ② 7月のフェロモントラップの誘殺数は、地点によるバラツキがあるが、概ね平年比やや多い。(＋) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
	【防除上の留意事項】 ① 被害果は見つけ次第せん除し、園地外に持ち出し適切に処分する。 ② 新梢の芯折れは見つけ次第せん除し、適切に処分する。	
シンクイムシ類	量：並	【なしの項を参照】
ハダニ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率 1～15%)	① 7月後半の発生量(寄生葉)は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。(＋)
	【防除上の留意事項】 ① 激しく加害されると早期落葉するため、発生状況に注意し、必要に応じて薬剤散布を実施する。 ② 薬剤防除にあたっては、収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。	

【ぶどう】

晩腐病	量：並 程度：少発生 (発病果房率 1～10%)	① 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
	【防除上の留意事項】 発病粒は見つけ次第せん除し、園外に持ち出し適切に処分する。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【ぶどう】 つづき

べと病	量： やや少ない 程度： 少発生 (発病葉率 1～10%)	① 7月後半の発生量(発病葉)は平年比やや少ない。 (－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
	【防除上の留意事項】 ① 発病した葉や果粒は見つけ次第せん除し、園地外に持ち出し適切に処分する。 ② デラウェアは収穫終了後に葉の健全性維持のため防除を必ず行う。大粒種では9月以降も発生が増加するので、予防散布に努める。	
褐斑病	量： 並 程度： 少発生 (発病葉率 1～10%)	① 7月後半の被害葉は未確認で、発生量は平年並。 (±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)

【かき】

円星落葉病	量： やや少ない	① 前年の発生量は平年比やや少なく、越冬伝染源量もやや少ないと推測される。(－) ② 向こう1か月の気温は高く(－)、降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
	【防除上の留意事項】 樹勢の低下は発病を助長するので、肥培管理に努める。	
すす点病	量： 並 程度： 少発生 (発病葉率 1～5%)	① 7月後半の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
チャノキイロアザミウマ	量： やや多い～並 程度： 少発生 (発病葉率 1～2%)	① 7月後半の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ハマキムシ類	量： やや多い 程度： 少発生 (被害果率 1～2%)	① 7月後半の発生量は平年並。(±) ② フェロモントラップの誘殺数は、平年比多い～やや多い。(＋) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
果樹カメムシ類	量： やや多い～並	① 7月後半の発生量は平年並。(±) ② トラップの誘殺数は概ね平年比やや少ない～平年並。(－～±) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--	-------

【秋冬ねぎ】

さび病	量：少ない 程度：少発生 (発病度 1～5)	① 7月後半の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く(－)、降水量は平年並か少ない(±～－)と予想されている。
黒斑病・葉枯病	量：並 程度：少発生 (発病度 1～20)	① 7月後半の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。(±～－)
軟腐病	量：並 程度：少発生 (発病株率 1～5%)	① 7月後半の発生量は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(＋)、降水量は平年並か少ない(±～－)と予想されている。
ネギハモグリバエ	量：並 程度：少発生 (被害度 1～10)	① 7月後半の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ネギアザミウマ	量：やや多い 程度：甚発生 (被害度 31 以上)	① 7月後半の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
【防除上の留意事項】 高温乾燥条件で密度が急増するので発生状況に注意し、発生が多いほ場では、定期的に防除を行い、密度抑制に努める。		
ネギコガ	量：並 程度：少発生 (被害株率 1～25%)	① 7月後半の発生量は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
シロイチモジヨトウ	量：多い 程度：少発生 (被害株率 1～10%)	① 7月後半の発生量は平年比多い。(＋) ② フェロモントラップの誘殺数は平年比多い。(＋) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【その他】

【アブラナ科野菜】 コナガ	量：並	① フェロモントラップの誘殺数は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(－)、降水量は平年並か少ない(±～＋)と予想されている。
【野菜類全般】 オオタバコガ	量：やや多い	① フェロモントラップの誘殺数は平年並～多い。(±～＋) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
【全般】 ハスモンヨトウ	量：やや多い	① フェロモントラップの誘殺数は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病虫害雑草防除指針」を参照してください ～

注１：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の５段階で表記しています。
②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注２： 「予報の根拠」の、（＋）は発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因、（±）はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：６月１日～８月３１日】

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

【参考】北陸地方 1 か月予報（8 月 1 日から 8 月 31 日までの天候見通し）
（新潟地方気象台：令和 8 年 7 月 30 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・期間の前半は高気圧に覆われやすいため、向こう 1 か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 7 0 %です。
週別の気温は、 1 週目は、高い確率 7 0 %です。
2 週目は、高い確率 8 0 %です。
3 ～ 4 週目は、高い確率 5 0 %です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	1 0	2 0	7 0
降 水 量	4 0	4 0	2 0
日照時間	2 0	4 0	4 0

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1 週目 （8 月 1 日～8 月 7 日）	1 0	2 0	7 0
2 週目 （8 月 8 日～8 月 1 4 日）	1 0	1 0	8 0
3 ～ 4 週目（8 月 1 5 日～8 月 2 8 日）	1 0	4 0	5 0